

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和3年度第5回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和3年10月27日（水）16:00～17:15
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：原理事長（議長）、桑野副理事長、石原理事、神坂理事、久保理事、野中理事、久留監事、柳澤監事

□ 議 事

【報告事項】

<概要> 令和3年10月4日に福岡市において開催された福岡市病院事業運営審議会について、事務局より報告を行った。

<主な意見等>

- 市民病院における今後の感染症医療の役割や取組みを検討するとしているが、患者受入をどの程度担うかは、病院だけでなく県内全体の問題でもあり、難しいところである。今でこそ県内の病床数はある程度確保されているが、コロナの発生当初において受入れが可能な病院はほとんどなかった。
- 市民病院では、病棟1フロアをコロナ専用に変換して、患者受入に最大限努力してきたところである。審議会においては、これまでのコロナ対応について検証を行った上で、現在の病院の建物・人員体制を前提として、今後どうしていくかが検討される見通しである。
- 医療崩壊を起こさないことや経営面を考慮しつつ、今後、感染症病床は、通常時には空床として確保するのではなく一般病床として使用し、パンデミックになった場合には陰圧装置を備えた専用病床に転用する運用になっていくものと思われる。
- コロナの患者を受入れない病院もある中で、市民病院がこれだけ活躍したことで、公立病院としての存在価値が明確になったと思う。コロナが落ち着いている間に、計画的に次への備えを行って欲しい。
- 病院の対策本部の役割としては、職員が常駐して、院内周知のほか、外部機関との窓口として、検査については保健所、入院については県の対策本部、夜間については輪番制で救急隊とそれぞれに対応しており、情報を一元化している。
- 自身が当事者となった経験として、コロナ患者についての相談を保健所や県などに行ったが、役割分担が不明確で専門部署間の連携も取れていなかったのもう少し効率よく機能すればと思う。そのほかにも、外国からの患者については相談ルートが異なり難しいところがある。
- 市民病院の貢献が報道などで一般の人にはあまり知られていないので、市民に分かりやすい形で積極的に情報発信してアピールして欲しい。コロナの発生当初には患者の受診控えや職員への影響から発信を控えていたが、現在は時間も経過して落ち着いている。

2 旧こども病院跡地処分の進捗状況について

<概要> 旧こども病院跡地処分に向けた現在の進捗状況について、事務局より報告を行った。

<主な意見等> 特になし。

3 福岡市立こども病院におけるDXの推進について

<概要> こども病院におけるDXの取組み状況について、事務局より報告を行った。

（主な取組例）

- ・データサイエンスに関する教育の実施
- ・スマートフォン等を使用したオンラインでの面会や患者説明
- ・グループウェアの導入による業務の電子化や自動化、ペーパーレス化
- ・情報セキュリティ対策の強化

- ・LINEによる予約受付
- ・A i b oの導入による患者サービスの向上（癒し効果） など

<主な意見等>

- DXを推進するにあたり、機構のグランドデザインの策定についても検討を進めている。
- ペーパーレスだけでなくキャッシュレスやハンコレス、ファックスレスなど、全部やるのは大変と思うが、どれも重要なので是非DXを推進されたい。
- パソコンやスマホなどを活用することで、場所の制約を受けず、時間の節約になる。職員全員が利用できるよう環境整備に努められたい。

(その他)

コロナ禍における両病院の看護の取組みについて、理事より報告があった。